デジタル化石図鑑

富山市八尾町高熊で採取された化石を紹介します

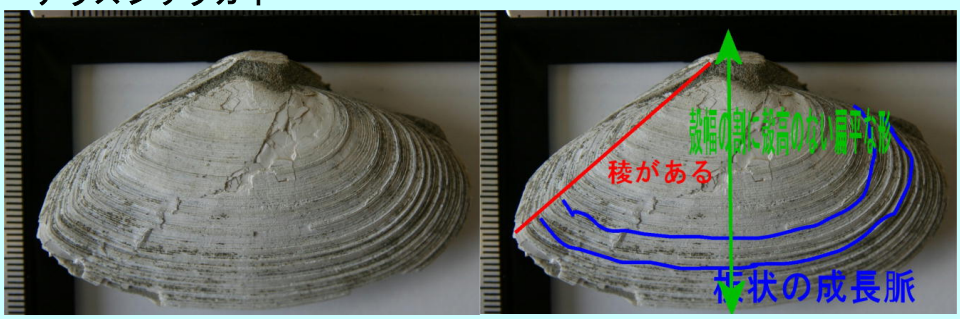
・エゾタマキガイ

一番の特長は、殻の裏側にある山形の溝です。
きれいな扇形をしており、殻の表面には、弱い放射肋（溝）があります。前後の筋痕（楕円で囲んだ部分）は大きく、円形の跡が残っています。

・カガミガイ

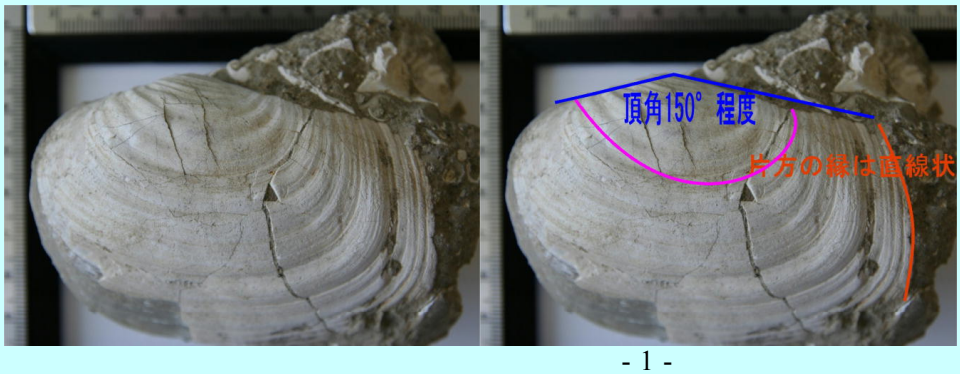
はっきりとした同心円状の成長脈が見られます。また、殻頂は殻幅の中心からずれており、殻頂のすぐ横に凹みがあります。
腹縁（一般的に「口」と呼ばれているところ）の一方はとがっています。

・アラスジサラガイ



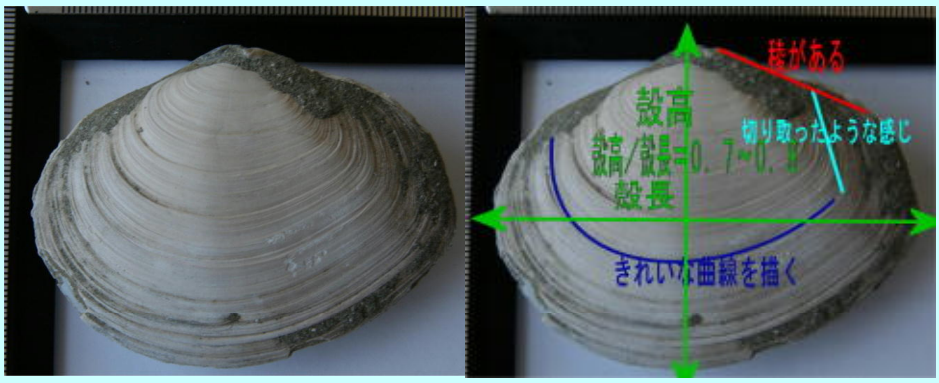
殻は薄く扁平な感じがします。板状の成長輪脈があります。

・ナミガイ



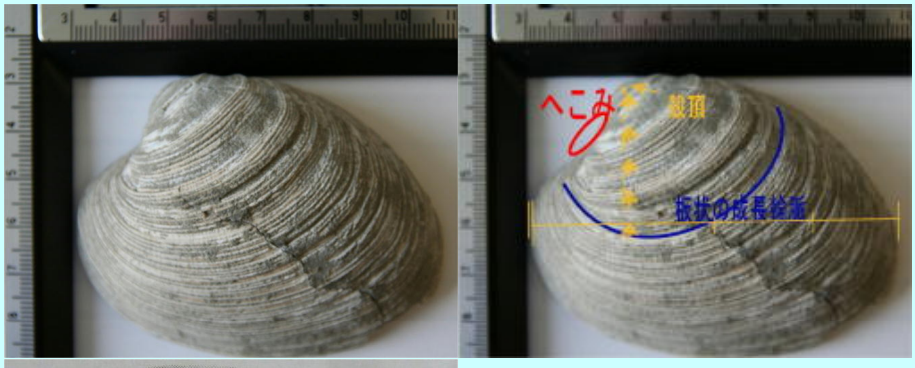
殻はやや厚く、太い成長輪脈があります。殻の前縁は直線状になっています。頂角は150°程度です。また、両殻の前後端は開いています。

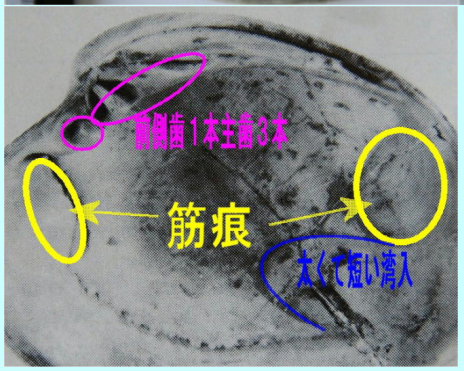
・スエモノガイ



殻の後端が切り取ったような感じになっています。殻の後ろに鋭い稜があり、殻表には、細い成長輪脈が刻まれています。

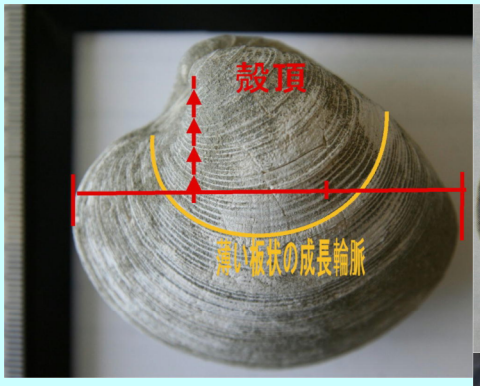
・タウエヌノメハマグリ

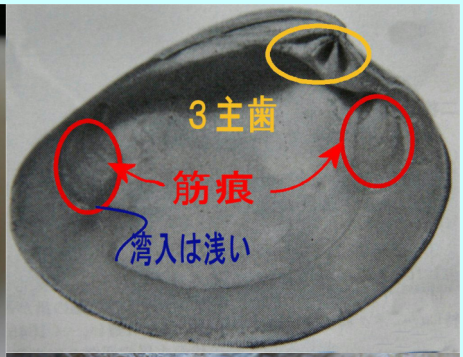


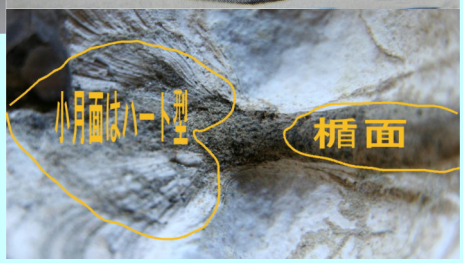


殻表には細かな放射肋と強い成長輪脈があります。殻頂は殻長の 1/4 辺りにあります。裏側の歯の数と太くて短い湾入が特長です。

・ビノスガイ







大きなものでは殻長が 100mm を超えることがあります。殻は厚く強い成長輪脈があります。
背面のハート型の小月面が一番の特長です。主歯は三個、湾入は浅くはっきりしています。